

簡単操作ガイド

撮影前のチェックポイント

概要

入学式・卒業式・発表会や運動会などの大切な撮影を、準備ミスや機材のトラブルで失ってしまうのは非常に残念なことです。
そのようなことにならないためのチェックポイントについて説明します。

注意・制限事項

本書の記載どおりに行っても、トラブルは完全に防げるものではありません。
万一、ビデオカメラやテープ、メモリーカードの不具合により、記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

目次

1.	デジタルビデオカメラのチェック	2
1.1.	ためし撮り	2
1.2.	ヘッドクリーニング	3
1.3.	レンズのクリーニング	3
1.4.	日付の確認	4
1.5.	グリップベルトの調節	4
1.6.	録画モード	5
1.7.	バッテリーの充電	5
2.	機材のチェック	6
3.	撮影中のチェック	6

(全 7 ページ)

1 デジタルビデオカメラのチェック

1.1 ためし撮り

撮影に出かける前には「ためし撮り」をしましょう！

「ためし撮り」をすることで、機材のトラブル発見でき、本番での機材トラブルを未然に防ぐことができます。特にデジタルビデオカメラを長期間使用していなかった場合には、必ず「ためし撮り」をして、デジタルビデオカメラの機能が正常に動作するか？ 映像や音声の問題なく記録されるか？を確認してください。

「ためし撮り」をする際は、当日に使用する予定の機材(コンバーターレンズ・外部マイク・ライトなど)を実際に接続して行ってください。

「ためし撮り」で修理を行う必要がある機材トラブルが発覚するかもしれません。修理に出す期間も考慮して「ためし撮り」は約2週間前に行うことをお勧めします。

※ 修理期間は故障箇所によっても異なりますので、実際の修理期間につきまして、販売店 または弊社サービスセンターにお問い合わせください。



以下の「ためし撮り」チェックは新品の MiniDV テープを使用して行う手順を記載しています。以前に記録したテープの続きで「ためし撮り」を行う際は、以前に記録した内容を消去(上書き)しないよう十分ご注意ください。

☑ 「ためし撮り」のチェックポイント

1. 充電されたバッテリーをセットしてみましょう

- 電源が入りますか？
- 液晶やビューファインダーに画面は表示されていますか？
- 液晶やビューファインダーにエラー表示などは出ていませんか？

2. 実際にテープを入れてみましょう

- 液晶やビューファインダーにエラー表示などは出ていませんか？

☑ 「ためし撮り」のチェックポイント(テープへの動画記録)

3. 録画を開始しましょう

- ピントは合いますか？
- ズームは動きますか？
- 露出は適正ですか？
- 本体に接続した機材は正常に動きますか？

4. 録画を停止してテープを巻き戻しましょう

- 正常に巻き戻しができますか？

5. 再生して記録された内容をチェックしましょう

- 再生された映像はブロックノイズが入っていたり、乱れたりしていませんか？
- 音声が届かなくなったり途切れたりしていませんか？

1.2 ヘッドクリーニング

ためし撮りで撮影した映像にブロックノイズが入っていたり乱れている、または、スピーカの音量を上げているのに、音声聞こえなかったり途切れたりする場合は、ヘッドが汚れている可能性があります。



デジタルビデオカメラのヘッドはヘッド幅が狭く(髪の毛の約 1/8)、テープに付着している磁性体やゴミがたまると目詰まりしてしまいます。ヘッドが目詰まりしていると映像や音声を正しく記録できなくなってしまいます。

このような場合、ヘッドクリーニングテープ(乾式)を使用してヘッドの汚れを取り除きましょう。

ヘッドクリーニングを行った後に再度「ためし撮り」を行っても記録内容に問題がある場合は、弊社サービスセンターにご相談ください。

- ※ ブロックノイズが発生した後、再度再生すると症状が改善している場合がありますが、念のためヘッドクリーニングを行うことをお勧めします。
- ※ ヘッドをクリーニング後、一旦は症状が改善するものの、またすぐに症状が再発生する場合は、テープが原因になっている可能性がありますので、そのテープの使用を避けてください。
- ※ ヘッドが汚れた状態で録画されたテープは、クリーニング後も正常に再生出来ない場合があります。クリーニング後に再度録画したテープを再生して確認してください。

ヘッドの汚れが発生しやすくなる主な原因

1. 高温、高湿度の環境下で使用している時
2. キズや汚れがあるテープを使用している時
3. ほこりの多い場所で使用している時
4. ヘッドをクリーニングせずに、長時間使用している時

1.3 レンズのクリーニング

被写体がどんなにきれいでも、撮影するデジタルビデオカメラのレンズが汚れては台無しです。レンズは、市販のレンズクリーニングキットなどを使って簡単にレンズをきれいにすることができます。

レンズは傷つきやすいものですので、必ず最初にブロワーを使って埃を吹き飛ばしてから、クリーニングペーパーなどで汚れを拭き取ってください。

詳しいクリーニング方法は市販のクリーニングキットの使用説明書をご参照ください。

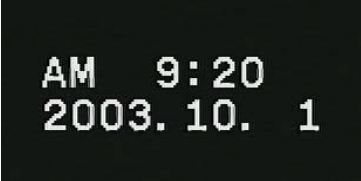


レンズを保護する「プロテクターフィルター」がアクセサリーとして設定されているモデルもあります。プロテクターフィルターをレンズの前面につけておくとレンズに直接傷がつくことを防ぐことができます。

- ※ アクセサリーについては <http://cweb.canon.jp/ivis/accessory/index.html> でご覧になれます。

1.4 日付の確認

デジタルビデオカメラで記憶している日付・時刻は、撮影日時を記録するものですので、非常に重要です。撮影を始める前に、日付・時刻があっているか確認しましょう。



AM 9:20
2003.10.1

日付・時刻をセットしても、しばらくするとリセットされてしまう場合は、日付・時刻を記憶している電池が消耗していると考えられます。日付・時刻を記憶している電池はモデルによって「充電型リチウム電池」と「コイン(ボタン)型リチウム電池」があります。

「充電型リチウム電池」採用モデル

iVHS HV20/iVHS HV10/IXY DV M5/IXY DV S1/
FV M30/PV1/CV11
XL H1/XH G1/XH A1/XV1

「コイン(ボタン)型リチウム電池」採用モデル

IXY DV M3/IXY DV M2/IXY DV M
IXY DV5/IXY DV3/IXY DV2/IXY DV
FV M300/FV M200/FV M100/FV M20/FV M10/FV M1
FV500/FV400/FV300/FV200/FV100
FV50/FV40/FV30/FV20/FV10/FV2/FV1
PV130/MV1/XL2/XL1S/XL1/XV2/

充電型リチウム電池の場合は、ACアダプターを使用してリチウム電池を充電することができます。コイン(ボタン)型リチウム電池の場合は、新しい電池と交換してください。電池の充電・交換方法やコイン(ボタン)型リチウム電池の型番については、使用説明書をご参照いただくか、以下の URL をご参照ください。

※ コイン(ボタン)型リチウム電池の型番

<http://cweb.canon.jp/e-support/faq/answer/dvcam/5504-1.html>



世界時計機能があるモデルでは海外旅行の際、都市名を選択するだけで、その都市の日時にセットされるので、海外旅行の時には大変便利です。

1.5 グリップベルトの調節

グリップベルトが緩んでいると、デジタルビデオカメラを安定して支えることができないため、手ぶれの原因になるばかりか、すばやい操作もできません。

撮影を開始する前に撮影者の手の大きさに合わせて、デジタルビデオカメラを安定して操作できるようにグリップベルトを調節してください。

グリップベルトの調節手順

1. グリップベルトに右手を通します。
2. 親指でスタート/ストップボタン、人差し指でズームレバーが操作できるように手の位置を決めます。
3. グリップベルトを調節します。



1.6 録画モード

撮影する対象によって録画モードを使い分けましょう。

キヤノン製デジタルビデオカメラの録画モードには、SPモード/LPモード(SPモードの1.5倍)、機種によってはESPモード(SPモードの2倍)/ELPモード(SPモードの3倍)があります。

SPモード以外での録画/再生はテープの特性や使用環境による影響を受けやすいため、再生時、画面にモザイク上のノイズが発生したり、音声途切れたりする場合があります。

ESPモード/ELPモードで撮影された画像は、SPモード/LPモードに比べると画質は低下し、画像が粗くなります。また、パソコンなどへの取り込みや、ESP/ELPに対応していないデジタルビデオカメラ等で再生することはできません。

LPモード/ESPモード/ELPモードは同じテープで長時間記録できる魅力的なモードですが、大切な記録には、SPモードを使用するようにしましょう。

モード別の録画・再生時間				
	SPモード	LPモード	ESPモード	ELPモード
	-	SP×1.5倍	SP×2倍	SP×3倍
30分テープ	30分	45分	1時間	1時間30分
60分テープ	1時間	1時間30分	2時間	3時間
80分テープ	1時間20分	2時間	2時間40分	4時間

1.7 バッテリーの充電

バッテリーは使用していなくても、徐々に放電(自然放電)されます。「以前充電したから大丈夫」と思わずに、大切な記録の前(前日)には必ずバッテリーを充電しましょう。

- ※ 長期間使用しなかったバッテリーでは、充電時間が通常よりも長くなる場合があります。
- ※ バッテリーは適度に「満充電」⇔「減電マークまで使用」を行うことがバッテリーの寿命を長くするコツです。
- ※ 満充電まで充電した状態で保管すると、バッテリーの寿命を縮めたり、性能低下の原因となる場合があります。



2 機材のチェック

さあ、最後に機材のチェックです。
以下の表は参考例です。ご自分で必要な機材リストを前もって作成して、当日(または前日)にチェックをつけるようにしましょう。

<input checked="" type="checkbox"/>	機材	備考
絶対に必要なもの		
<input type="checkbox"/>	デジタルビデオカメラ本体	
<input type="checkbox"/>	MiniDV テープ	録画予定時間の 1.5~2 倍は用意しましょう。
<input type="checkbox"/>	バッテリー	録画予定時間の 2 倍程度は用意しましょう。 特に寒冷地での撮影はバッテリーのもち時間が短くなるので注意
あったほうが良いもの		
<input type="checkbox"/>	ヘッドクリーニングテープ(乾式)	
<input type="checkbox"/>	レンズクリーニングキット	
撮影場所(シーン)などによってはあったほうが良いもの		
<input type="checkbox"/>	コンバーターレンズ	
<input type="checkbox"/>	フィルター類	
<input type="checkbox"/>	AC アダプター (コンパクトパワーアダプター)	旅先などで記録内容をチェックしたりする場合の必需品
<input type="checkbox"/>	バッテリー充電器	
<input type="checkbox"/>	三脚	
<input type="checkbox"/>	外部マイク	
<input type="checkbox"/>	ビデオライト	
<input type="checkbox"/>	変換プラグアダプター	海外で使用する場合、バッテリーの充電などに必要 ※変換アダプターの種類については旅行代理店などでご確認ください。

3 撮影中のチェック

撮影中にも時間の合間を見て、こまめに記録した内容を確認しましょう。
記録した内容を確認することで、レンズやヘッドは汚れていないか？ 露出は正しいか？ 手ブレはしていないか？ などを確認でき、後で見たときに鑑賞しやすい映像を記録することができます。
特に、レンズやヘッドの汚れがあると、きれいな映像を記録することができないので、そのようなことを発見した場合にはすぐにクリーニングできるよう、レンズクリーニングキットやヘッドクリーニングテープは常に携帯することをお勧めします。

簡単操作ガイド

撮影前のチェックポイント

2007年10月 第6版
アイビスホームページ canon.jp/ivis
お客様相談センター 050-555-90003

「キヤノン」「Canon」、その他本文中の社名や商品名は一般に各社の登録商標または商標です。
製品の改良のため予告なく変更される場合がありますのでご了承ください。
記載の内容は2007年10月現在のものです。
本簡単操作ガイドのすべてあるいは一部を、キヤノンマーケティングジャパン株式会社の許可なく無断で複製、複製、転記することを禁止します。